

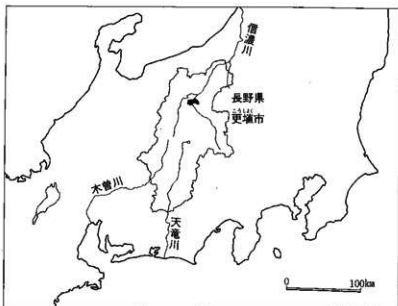
長野県更埴市

大 境 遺 跡

—中部電力株式会社送電用鉄塔建設に伴う発掘調査報告書—

1 9 8 8

更埴市教育委員会
更埴市遺跡調査会



例 言 目 次

- 1 本書は、昭和62年9月14日から同年9月21日の間に、中部電力株式会社の送電用鉄塔建設に先だって実施された発掘調査報告書である。
- 2 本書の編集執筆は佐藤信之が行った。
- 3 本調査の出土遺物、実測図等はすべて更埴市教育委員会に保管されている。
- 4 調査の関係資料には、大境遺跡中部電力鉄塔を略して“OZT”と表記した。

例言 目次

I	調査の概要	1
II	調査の経過	2
III	遺跡の環境	3
IV	遺構と遺物	4
V	ま と め	5

図 版



I 調査の概要

- 1 発掘調査委託者 中部電力株式会社長野支店
- 2 発掘調査受託者 更埴市遺跡調査会
- 3 発掘調査実施者 更埴市教育委員会・更埴市遺跡調査会
- 4 発掘調査場所及
び土地の所有者 更埴市大字墨代字大境1,326
長野市柳町18 中部電力株式会社長野支店
- 5 発掘調査遺跡名 大境遺跡（市台帳No31-7）
- 6 調査の目的 中部電力送電用鉄塔建設に伴う当該遺跡の記録保存
- 7 調査期間 昭和62年9月14日～同年9月21日
- 8 調査面積 90㎡以上
- 9 調査方法 グリッド調査法
- 10 調査費用 費用総額415,000円（金額委託者負担）

11 調査会の構成

会 長	安藤 敏	更埴市教育委員会教育長
理 事	田沢佑一	更埴市議会議員
	佐藤穂次	更埴市教育委員会教育委員長
	寺沢脩七	更埴市区長会長
	相沢正幸	更埴市文化財保護審議会長
	寺沢政男	更埴市役所総務課長
監 事	武井隆義	更埴市社会教育委員会委員長
	関 京子	更埴市役所会計課長
幹 事	武井豊茂	更埴市教育委員会社会教育課長
	山崎文夫	更埴市教育委員会社会教育係長
	矢島宏雄	更埴市教育委員会社会教育主事
	佐藤信之	更埴市教育委員会社会教育課主事

12 調査団の構成

団 長	安藤 敏
調査担当者	佐藤信之
調査参加者	市川睦雄 久保啓子 小林芳白 坂口誠子 高野貞子 村山 豊
整理参加者	青木美知子 小林昌子
事務局	武井豊茂 山崎文夫 矢島宏雄 佐藤信之 田中啓子 山根洋子(社会教育課)



II 調査の経過

昭和62年4月9日、中部電力より歴代遺跡群を横断する送電用の鉄塔3基の建変えを実施したいとの連絡があり、8月11日に57条の提出があったため、市教育委員会では大境地籍に建設されるものについては発掘調査が、他は立会調査が必要となることを連絡した。8月25日、市に対して調査の依頼があり、市教育委員会では遺跡調査会に対応することとし、準備を開始した。9月3日に98条を提出し、9月8日、中部電力と市遺跡調査会との間に調査費用810,000円で発掘調査の委託契約が締結された。9月14日より調査を開始したが、調査区内には建変え前の鉄塔があり、当初予定した面積を掘り下げると危険となるため、調査面積を縮小し重要な遺構が検出された場合には改めて調査を行うこととした。9月21日、土壌墓、溝等の検出を行い調査を終了した。調査面積の縮小があったため、前回の契約を破棄し、調査費用415,000円で改めて委託契約を締結した。

経過

8月11日	57条の提出
8月21日	中電より調査の依頼
9月3日	98条の提出
9月14日	重機による表土剥ぎ
9月16日	作業員入り掘り下げ開始
9月17日	土壌墓検出
9月19日	遺構の掘り下げ完了
9月21日	実測完了し現場における作業は終了とする。

発掘調査日数 6日
延べ作業員数 19.5人



第1図 発掘調査風景

III 遺跡の環境

佐久平より北流を続ける千曲川は善光寺平に入り、犀川あるいは聖川の影響によりその流れを大きく東へと変え、両岸には広大な自然堤防が形成されている。大境遺跡は左岸に形成された自然堤防上に位置しており、大きく屋代遺跡群として把握されている。

屋代遺跡群は、東西3.5km南北1kmにわたって展開する更埴市屈指の大遺跡で、善光寺平最初の学術調査が実施された城ノ内遺跡の他、生仁遺跡、灰塚遺跡、馬口遺跡、大塚遺跡等が含まれ、縄文時代晩期から中世に至る資料を出土している。また遺跡群の周囲には更埴条里水田遺跡が広がっている。

大境遺跡は遺跡群のほぼ中央にあたり、昭和55年にオリオン機械㈱屋代工場建設の際、試掘調査が実施され、奈良から平安時代を中心とした集落址であることが知られている。今回の調査地点は遺跡の北端にあたり、自然堤防上に展開する集落址から、水田址へと移行する地点となることから、注目される地域である。

なお屋代遺跡群一帯は、今後高速自動車道、新幹線が計画されており、急変が予想される地域である。



1.大境遺跡 2.城ノ内遺跡 3.生仁遺跡 4.灰塚遺跡 5.馬口遺跡 6.大塚遺跡 (1/20,000)

第2図 遺跡位置図

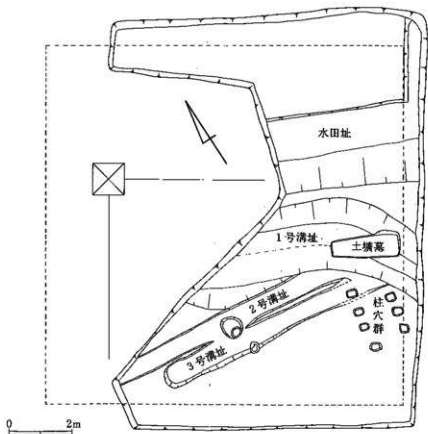
IV 遺構と遺物

集落址の検出を想定したが、住居址はなく、溝址3本、土墳墓1基、柱穴群1基が検出されたにすぎず、北側3分の1は1mほど落ち込んで水田址となっている。

1号溝址

幅2.3m、深さ1.2m、底部幅0.5mほどで、V字形に近い逆台形状を呈している。曲がっているものの、自然堤防の縁に沿って西から東へと走っているものと思われ、北側2mほどからは急激に落ち込んで水田址となる。出水があり完掘できなかったが、覆土は灰色あるいは黄褐色の粘質土であり、水の流れた痕跡を見出すことはできなかった。

出土遺物は少ない。3～7は須恵器の坏で、高台を持たない3～5の底部はいずれも回転ヘラケズリとなっており、4は体部が外反して口縁部に至るのに対して、3・5は底部と体部との間に明瞭な稜を持たず、内湾ぎみに立ち上がって口縁部となる。高台を持つ6・7は体部が直線的



第3図 調査全体図

に外開し、高台は稜が鋭く、強く開いている。8は須恵器壺の底部と思われる。

2号・3号溝址

東西に走る溝として2本並んで検出されたもので、東側は1号溝址に切られている。幅70~80cm深さ20cm前後で、断面形はU字形を呈している。一部分で2本が重なっているが両者に前後関係があるのかは明確でない。黒褐色土を覆土としている。

出土遺物は少なく時代を判断することはできない。

土壌墓

1号溝内より検出されたもので、溝が8割ほど埋まった状態の時に埋葬されたものと思われる。伸展葬であり頭位をS-75°-Eに持っている。大腿骨、脛骨、上腕骨、脊椎骨、それに歯が残存していたが風化が激しく、ほとんど原形を残していない。土壌は長軸2.2m、中央部幅

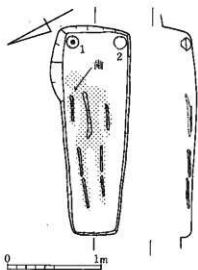
0.7mを測るか頭部側がやや広がっている。検出面からの深さは最大40cmほど測れる。溝内にあるため底部は明確でなかったが、壁は垂直に近く顕著であった。

出土遺物には頭部側の隅より出土した1と2がある。いずれも完形で1は右側から、2は左側から底部を上にして出土している。1は須恵器坏で口径13cmを測る。糸切り痕を残した底部から弯曲しながら立ち上がった体部は、やや外反して口唇部となる。2は内面黒色処理された土師器坏で口径12.4cmを測る。内面には放射状の暗文が施されており、底部には糸切り痕をそのまま残している。

柱穴群

調査区東側より検出した遺構で、7本の柱穴から成っている。西側に4本、東側に3本がそれぞれ30~50cmほどの間隔を持ってN-10°-Eの方向に並んでおり、両者の間は80cm前後となっている。柱穴は約30cmの方形で東西にやや長く、深さは40~45cmである。溝址3を切って作られており、覆土は暗褐色土で柔らかい。

出土遺物は小片であり時代を判断できるものはない。



第4図 土壌墓

V ま と め

調査区が自然堤防の北端となるため、自然堤防上に存在する集落址の北限から水田址へとの移行部分が究明できるとの想定で調査を開始したが、住居址の検出はなかった。これまで南接する城ノ内遺跡あるいは荒井遺跡の調査では、弥生時代から古墳時代に至る集落址が、自然堤防の縁と

なる部分まで構築されていたため、自然堤防はその後、千曲川によってかなり浸食されているものと考えてきた。しかし今回の調査地点では、現在の自然堤防の縁より7mほど入った部分が自然堤防の縁となることが明らかとなり、自然堤防の北縁は複雑な形状を示していたと考えられる。

自然堤防の北側に水田址が存在することは、すでに昭和58年の立会調査の際に明らかとなっていたが、その水田址が自然堤防と接する部分が検出されたのは今回の調査が最初である。両者の接点となる部分には溝等の施設はなかったが、水田面は自然堤防縁辺部と約1mの比高を持っており、40度ほどの角度をなして急激に落ち込んでいる。この角度は自然地形と考えるにはあまりにも急であるため、水田造営の際自然堤防を削っている可能性がある。

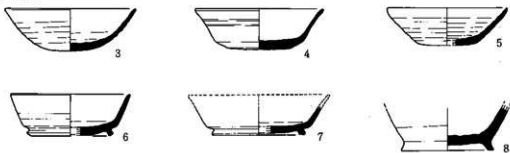
1号溝址も水田址との関係を考えて興味深い。この溝址はその出土遺物からは奈良時代後半が考えられ、土壌墓の出土遺物から少なくとも10世紀後半にはその機能を失っていたものと思われる。断面の観察からは水の流れた痕跡を見出すことはできなかったが、水田面より20cmほど下がった底部と1.2mの深さは、水田への灌水に十分利用が可能であり、今後周辺部の調査では両者の関係を明らかにしていくことが重要である。

最後に、本調査にあたっては、発掘調査に全面的に御協力くださった中部電力株式会社、作業に参加くださった方々に心からなる謝意を表し、今後の御協力をお願いするところであります。

土壌墓



1号溝址



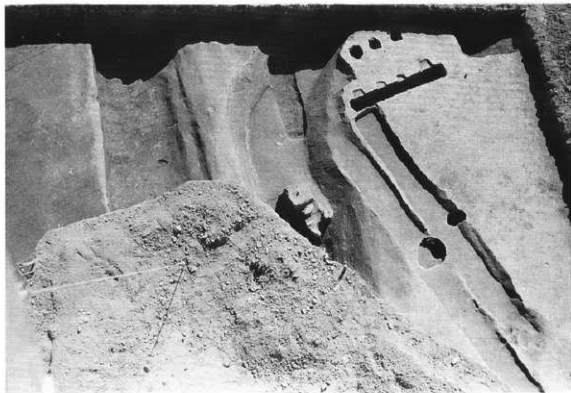
グリッド



第5図 出土遺物実測図



调查地远景



调查区全景



土墳墓



土墳墓出土遺物

